早めのピロリ除菌を！

消化器科

太田（おおた） 恭子（きょうこ） 先生

2016年5月より木曜日、金曜日の午前で消化器外来を担当させて頂いております太田恭子です。出身は広島市で、岡山県に来て11年目、倉敷市に来て6年目になります。

消化器科外来ではピロリ菌の相談を受けることがよくあります。主に胃潰瘍、十二指腸潰瘍の再発予防治療として行われていたヘリコバクターピロリ菌の除菌治療が、胃カメラで萎縮性胃炎（ピロリ感染性胃炎）が認められた人にも保険適応が拡大されたのが4年前の2013年2月からです。

除菌治療は2種類の抗生剤と、1種類の制酸剤（胃薬）を朝晩7日間服用します。ピロリ菌が消える確率は7～8割、消えなかった人は抗生剤の種類を変えて二次除菌治療を行い、二次除菌を合わせると消える確率は9割と言われています。

ピロリ除菌についてぜひお伝えしたいことが2つあります。ひとつは、ピロリ除菌に成功するとピロリ菌を持ったままより、将来の胃癌発生が3分の1に軽減されること。もうひとつは除菌年齢が早いほうが効果の大きいこと（私がよく説明するのは40代の人であれば「ピロリ菌を今まで40年持っていたことになるので・・」、70代の人であれば「70年持っていたことになるので・・」）。

ちなみに除菌後も早期胃がん発見のために1年に1回胃カメラを受けることが推奨されています。

倉敷市の胃がん住民検診でも来年度より従来の胃透視のみに変わり、50歳以上の人は2年に1回胃カメラを選ぶことが出来るようになりました。バリウム検査でははっきりしなかった萎縮性胃炎の指摘が増えて、ピロリ検査、除菌治療を希望される人もさらに増えていくことになると思います。該当される方、ご家族に該当される方がおられましたら、ぜひ受診にいらしてください。

太田先生は毎週木曜・金曜午前の消化器科を担当されています。

Doctor´s Eyes